

町長のまちづくり奮闘記



～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～
【新年が良い年となることを願う…】

町長に就任して以来、毎年恒例としてしている町内の神社廻りを一月元日（月）に行い、白神（祖鯨）神社から吉野八幡神社、吉岡八幡神社、宮歌八幡神社、白符大神宮、福島大神宮、月崎神社、釜谷神社、岩部神社、熊野神社、千軒神社までの十一の神社を参拝し、地域の安全をお願いしてまいりました。

「二日の計は晨（あした）にあり、一年の計は春にあり」とありますが、今年の一年の初日にあたり、まちづくりに向けて、しっかりと一年の計画を立て、新たに頑張る決意でありますので、町民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

私の今年の仕事初めは、三日（水）の吉岡八幡神社の本祭への参加から始まり、その日の夜は福島いか釣り船頭会の総会へ参加いたしました。

四日（木）は、早朝から消防団の出初式があり、

昼には福島町援護相談所の総会へ出席、そして夜は福島小型部会の総会へ出席いたしました。

役場の仕事始めは例年より遅く九日（火）からでしたが、毎年職員の方々に向けて、私より仕事始めの訓示をさせていただいております。

今年は、職員の皆様に仕事をする上で大切な三つのことを胸に、仕事に励んでいただくようお願いいたしましたので、ご紹介いたします。

「平成という一つの時代が実質的に幕を閉じようとしている今年、新たな時代の幕明けとなり、時代が大きく変化する年でもあります、そういう意味でも大変重要な一年になると感じております。

この重要な年に職員の皆様には、三つの行動を胸に、一年間の仕事に励んでいただきたいと思います。

一つは、大局な思考を持って行動する。全体を

鳥瞰（ちようかん）並びに俯瞰（ふかん）すること、自分の枠にとらわれないで、相手の思いになつて物事を考え行動する。

二つ目は、前向きな思考で行動する。一人ひとりの職員が受け身ではなく、創造力をもつて自ら企画立案し、挑戦者として行動する。

三つ目は、現場思考で行動する。常に現場を大切にし、現場の声に耳を傾け、現場に寄り添い行動をする。」と話させていただきましたので、職員の皆様の頑張りを期待するものであります。

また、昨年に引き続き、一月十三日（土）に函館市で開催された、函館青年会議所の新年交礼会に参加をさせていただきました。

青年会議所のメンバーの方々には、子供たちの「わんぱく相撲大会」で大変お世話になっている関係で、毎年ご招待をいただいているものです。

会場では、工藤函館市

長や久保函館商工会議所会頭とあいさつを交わすことができ、福島町への支援をお願いいたしました。

青年会議所の今年のスローガンは、不可能から可能へ。今ここにはない未来は自分たちで創る。となっており、青年らしい行動力によって、まちの未来図の具現化に向けて一歩一歩着実にすすめていくとしております。

福島町においても故郷を思う若い力が芽生え始めております。

私たちには、この若い芽を大切に育て、支援していく義務があります。

私たちも福島町の未来を担う若者たちとともに、福島町の未来図を思い描き、夢の実現に向けて全力で挑戦することが大切です。今年の一年が心豊かで実り豊かな年となることを信じて、一歩一歩着実な歩みを進めてまいります。